

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號六第 卷十二第

行發日一月六年四十四正大

論叢

米價と關稅との關係に就て……………法學博士 河田 嗣郎
 勞働者所得に對する特別課稅……………法學博士 神戶 正雄
 天保以後の西陣……………經濟學博士 本庄榮治郎

說苑

運賃延戻制……………法學士 小島昌太郎
 獨逸古典學派の勞賃論……………法學士 山口正太郎
 マルクスの絶對地代に就て……………經濟學士 八木芳之助
アダム・スミスに於ける 勞働價值法則の妥當性に就……………經濟學士 森 耕二郎

雜錄

資本主義經濟組織の下に於ける 商業の一機能に就……………經濟學士 谷口 吉彦
 統計拾穗抄……………法學博士 財部 靜治

法令

衆議院議員選舉法摘要・貴族院令ノ改正・治安維持法・關東州ニ行ハルル命令ニ依ル日本船舶ニ
 關スル件・船舶無線電話施設法・漁業増産法・倫敦協定ニ依リ實施セラルルコトニ決定シタ
 ル専門家計畫(所謂ドーゾ案概要)

附錄

本誌第二十卷總目錄

經濟法令

衆議院議員選舉法摘要

法律第四十七號 (大正十四年五月五日)

第二章 選舉權及被選舉權

第五條 帝國臣民タル男子ニシテ年齡二十五年以上ノ者ハ選舉權ヲ有ス

第六條 左ニ掲グル者ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス

一 禁治産者及準禁治産者

二 破産者ニシテ復權ヲ得サル者

三 貧困ニ因リ生活ノ爲公私ノ救助ヲ受ケ又ハ扶助ヲ受クル者

四 一定ノ住居ヲ有セサル者

五 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

六 刑法第二編第一章、第三章、第九章、第十六章乃至第二

十一章、第二十五章又ハ第三十六章乃至第三十九章ニ掲ク

ル罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ

又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後其ノ刑期ノ二倍ニ

相當スル期間ヲ經過スルニ至ル迄ノ者但シ其ノ期間五年ヨ

經濟法令

リ短キトキハ五年トス

七 六年未滿ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ前號ニ掲グル罪以外

ノ罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ

又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

第七條 華族ノ戸主ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス

陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者(未タ入營セサル者及歸休下士

官兵ヲ除ク)及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ選舉權及被

選舉權ヲ有セス兵籍ニ編入セラレタル學生生徒(勅令ヲ以テ

定ムル者ヲ除ク)及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者亦

同シ

第八條 選舉事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域内ニ於

テ被選舉權ヲ有セス

第九條 在職ノ宮内官、判事、朝鮮總督府判事、臺灣總督府法

院判官、關東廳、法院判官、南洋廳判事、檢事、朝鮮總督府檢

事、臺灣總督府法院檢察官、關東廳法院檢察官、南洋廳檢

事、陸軍法務官、海軍法務官、行政裁判所長官、行政裁判所

評定官、會計檢査官、收稅官吏及警察官吏ハ被選舉權ヲ有セ

ス

第十條 官吏及待遇官吏ハ左ニ掲グル者ヲ除クノ外在職中議員

ト相兼タルコトヲ得ス

一 國務大臣

二 内閣書記官長

三 法制局長官

四 各省政務次官

第二十卷 (第六號一五三) 一〇九五

經濟法令

五 各省參興官

六 內閣總理大臣秘書官

七 各省秘書官

第十一條 北海道會議員及府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第三章 選舉人名簿

第十二條 町村長ハ毎年九月十五日ノ現在ニ依リ其ノ日迄引續キ一年以上其ノ町村内ニ住居ヲ有スル者ノ選舉資格ヲ調査シ選舉人名簿二本ヲ調製シ十月十五日迄ニ之ヲ郡長ニ送付スヘシ

郡長ハ町村長ヨリ送付シタル名簿ヲ調査シ其ノ修正スヘキモノハ修正ヲ加ヘ一本ハ十月三十一日迄ニ之ヲ町村長ニ返付スヘシ

市長ハ毎年九月十五日ノ現在ニ依リ其ノ日迄引續キ一年以上其ノ市内ニ住居ヲ有スル者ノ選舉資格ヲ調査シ十月三十一日迄ニ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第一項又ハ前項ノ住居ニ關スル要件ヲ具備セサル選舉人ハ選舉人名簿ニ登錄セラルルコトヲ得ス

選舉人名簿ニハ選舉人ノ氏名、住居及生年月日等ヲ記載スヘシ

第一項又ハ第三項ノ住居ニ關スル期間ハ行政區畫變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

第十三條 郡長及市町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間郡市役所、町村役場又ハ其ノ指定シタル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ縦

第二十卷 (第六號 一五四) 一〇九六

覽ニ供スヘシ

郡長及市町村長ハ縦覽開始ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ縦覽ノ場所ヲ告示スヘシ

第四章 選舉、投票及投票所

第十八條 總選舉ハ議員ノ任期終リタル日ノ翌日之ヲ行フヲ例トス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ議員ノ任期終リタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ行フコトヲ妨ケス

議會閉會中又ハ議會閉會ノ日ヨリ二十五日以内ニ議員ノ任期終ル場合ニ於テハ總選舉ハ議會閉會ノ日ヨリ二十六日以後三十日以内ニ之ヲ行フ

衆議院解散ヲ命セラレタル場合ニ於テハ總選舉ハ解散ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ行フ

總選舉ノ期日ハ勅命ヲ以テ之ヲ定メ少クトモ二十五日前ニ之ヲ公布ス

第二十七條 選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ議員候補者一人ノ氏名ヲ記載シ投函スヘシ

投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

第二十八條 投票ニ關スル記載ニ付テハ勅令ヲ以テ定ムル點字ハ之ヲ文字ト看做ス

第五章 開票及開票所

第四十四條 郡市長ハ開票管理者ト爲リ開票ニ關スル事務ヲ擔任ス

第六章 選舉會

第五十八條 地方長官ハ各選舉區内ニ於ケル郡市長ノ中ニ就キ

選舉長ヲ定ムヘシ但シ一縣一選舉區タル場合ニ於テハ其ノ地方長官ヲ、一市一選舉區タル場合ニ於テハ其ノ市長ヲ選舉長トス

選舉長ハ選舉會ニ關スル事務ヲ擔任ス

第七章 議員候補者及當選人

第六十七條 議員候補者タラムトスル者ハ選舉ノ期日ノ公布又ハ告示アリタル日ヨリ選舉ノ期日前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

選舉人名簿ニ記載セラレタル者他人ヲ議員候補者ト爲サムトスルトキハ前項ノ期間内ニ其ノ推薦ノ届出ヲ爲スコトヲ得
前二項ノ期間内ニ届出アリタル議員候補者其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ヲ超ユル場合ニ於テ其ノ期間ヲ經過シタル後議員候補者死亡シ又ハ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ前二項ノ例ニ依リ選舉ノ期日ノ前日迄議員候補者ノ届出又ハ推薦届出ヲ爲スコトヲ得

議員候補者ハ選舉長ニ届出ヲ爲スニ非サレハ議員候補者タルコトヲ辭スルコトヲ得ス

前四項ノ届出アリタルトキ又ハ議員候補者ノ死亡シタルコトヲ知リタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第六十八條 議員候補者ノ届出又ハ推薦届出ヲ爲サムトスル者ハ議員候補者一人ニ付二千圓又ハ之ニ相當スル額面ノ調債證書ヲ供託スルコトヲ要ス

議員候補者ノ得票數其ノ選舉區内ノ議員ノ定數ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ十分ノ一ニ達セサルトキハ前項

ノ供託物ハ政府ニ歸屬ス

議員候補者選舉ノ期日前十日以内ニ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス但シ被選舉權ヲ有セザルニ至リタル爲議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十九條 有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス但シ其ノ選舉區内ノ議員ノ定數ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ四分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

當選人ヲ定ムルニ當リ得票數同シキトキハ年齢多キ者ヲ取リ年齢モ亦同シキトキハ選舉會ニ於テ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム
第八十一條又ハ第八十三條ノ規定ニ依ル訴訟ノ結果更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選人ヲ定メ得ル場合ニ於テハ選舉會ヲ閉キ之ヲ定ムヘシ

當選人當選ヲ辭シタルトキ、死亡者ナルトキ又ハ第七十條ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ第一項但書ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者ノ中ニ就キ當選人ヲ定ムヘシ

當選人第八十四條ノ規定ニ依ル訴訟ノ結果又ハ第三百三十六條ノ規定ニ依リ當選無効ト爲リタルトキハ選舉會ヲ閉キ其ノ第七十四條ノ規定ニ依ル當選承諾者出期限前ナル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依リ其ノ届出期限經過後ナル場合ニ於テハ第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者ノ中ニ就キ當選人ヲ定ムヘシ

前三項ノ場合ニ於テ第一項但書ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラ

サリシ者選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ有セサルニ至リタルトキハ之ヲ當選人ト定ムルコトヲ得ス

第七十一條 第六十七條第一項乃至第三項ノ規定ニ依ル届出アリタル議員候補者其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ヲ超エサルトキハ其ノ選舉區ニ於テハ投票ヲ行ハス

前項ノ規定ニ依リ投票ヲ行フコトヲ要セサルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ旨ヲ投票管理者ニ通知シ併セテ之ヲ告示シ且地方長官ニ報告スヘシ

投票管理者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ニ告示スヘシ

第一項ノ場合ニ於テハ選舉長ハ選舉ノ期日ヨリ五日以内ニ選舉會ヲ開キ議員候補者ヲ以テ當選人ト定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ議員候補者ノ被選舉權ノ有無ハ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ選舉長之ヲ決定スヘシ

第七十五條 左ニ掲グル事出ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選人ヲ定メ得ルトキヲ除クノ外地方長官ハ選舉ノ期日ヲ定メ少クトモ十四日前ニ之ヲ告示シ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ但シ同一人ニ關シ左ニ掲グル其ノ他ノ事由ニ依リ又ハ第七十九條第六項ノ規定ニ依リ選舉ノ期日ヲ告示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 當選人ナキトキ又ハ當選人其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキ

二 當選人當選ヲ辭シタルトキ又ハ死亡者ナルトキ

三 當選人第七十條ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキ

四 第八十一條又ハ第八十三條ノ規定ニ依ル訴訟ノ結果當選人ナキニ至リ又ハ當選人其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルニ至リタルトキ

五 當選人第八十四條ノ規定ニ依ル訴訟ノ結果當選無効ト爲リタルトキ

六 當選人第三百三十六條ノ規定ニ依リ當選無効ト爲リタルトキ

第九章ノ規定ニ依ル訴訟ノ出訴期間ハ前項ノ規定ニ依リ選舉ヲ行フコトヲ得ス其ノ出訴アリタル場合ニ於テ訴訟繫屬中亦同シ

第一項ノ選舉ノ期日ハ第九章ノ規定ニ依ル訴訟ノ出訴期間満了ノ日、其ノ出訴アリタル場合ニ於テハ地方長官第八十六條

第一項ノ規定ニ依リ訴訟繫屬セサルニ至リタル旨ノ大審院長ノ通知ヲ受ケタル日又ハ第四百十三條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日ヲ超ユルコトヲ得ス第一項各號ノ一ニ該

當スル事由議員ノ任期ノ終ル前六月以内ニ生シタルトキハ第一項ノ選舉ハ之ヲ行ハス

第八章 議員ノ任期及補闕

第七十九條 議員ニ關員ヲ生スルモ其ノ關員ノ數同一選舉區ニ於テ二人ニ達スル迄ハ補闕選舉ハ之ヲ行ハス

議員ニ關員ヲ生シタルトキハ内務大臣ハ議院法第八十四條ノ規定ニ依ル衆議院議長ノ通牒ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ地方長官ニ對シ其ノ旨ヲ通知スヘシ

地方長官ハ前項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ其ノ關員

ト爲リタル議員カ第七十四條ノ規定ニ依ル當選承諾届出ノ期
限前ニ於テ關員ト爲リタル者ナル場合ニ於テ第六十九條第一
項但書ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラザリシ者アルトキ又ハ其
ノ期限經過後ニ於テ關員ト爲リタル者ナル場合ニ於テ第六十
九條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選人ト爲
ラザリシ者アルトキハ直ニ議員關員ト爲リタル旨ヲ選舉長ニ
通知スヘシ

選舉長ハ前項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内
ニ第六十九條第四項乃至第六項ノ規定ヲ準用シ當選人ヲ定ム
ヘシ

地方長官ハ第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル場合ニ於テ第
三項ノ規定ノ適用アルトキ及同一人ニ關シ第七十五條ノ規定
ニ依リ選舉ノ期日ヲ告示シタルトキヲ除クノ外其ノ關員ノ數
同一選舉區ニ於テ二人ニ達スルヲ待チ最後ニ第二項ノ規定ニ
依ル通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ補關選舉ヲ行ハシム
ヘシ

補關選舉ノ期日ハ地方長官少クトモ十四日前ニ之ヲ告示スヘシ
第七十五條第二項乃至第四項ノ規定ハ補關選舉ニ之ヲ準用ス

第九章 訴訟

第八十一條 選舉ノ效力ニ關シ異議アル選舉人又ハ議員候補者
ハ選舉長ヲ被告トシ選舉ノ日ヨリ三十日以内ニ大審院ニ出訴
スルコトヲ得

第八十三條 當選ヲ失ヒタル者當選ノ效力ニ關シ異議アルトキ
ハ當選人ヲ被告トシ第七十二條第一項及第二項ノ告示ノ日ヨ

リ三十日以内ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得但シ第六十九條第
一項但書ニ定メタル得票ニ達シタルトノ理由、第六十九條第
六項若ハ第七十條ノ規定ニ該當セストノ理由又ハ第七十一條
第五項ノ決定違法ナリトノ理由ニ因リ出訴スル場合ニ於テハ
選舉長ヲ被告トスヘシ

第十章 選舉運動

第八十八條 議員候補者ハ選舉事務長一人ヲ選任スヘシ但シ議
員候補者自ラ選舉事務長ト爲リ又ハ推薦届出者（推薦届出者
敷人アルトキハ其ノ代表者）議員候補者ノ承諾ヲ得テ選舉事
務長ヲ選任シ若ハ自ラ選舉事務長ト爲ルコトヲ妨ケス

議員候補者ノ承諾ヲ得スシテ其ノ推薦ノ届出ヲ爲シタル者ハ
前項但書ノ承諾ヲ得ルコトヲ要セス

議員候補者ハ文書ヲ以テ通知スルコトニ依リ選舉事務長ヲ解
任スルコトヲ得選舉事務長ヲ選任シタル推薦届出者ニ於テ議
員候補者ノ承諾ヲ得タルトハキ亦同シ

選舉事務長ハ文書ヲ以テ議員候補者及選任者ニ通知スルコト
ニ依リ辭任スルコトヲ得

選舉事務長ノ選任者（自ラ選舉事務長ト爲リタル者ヲ含ム以
下之ニ同シ）ハ直ニ其ノ旨ヲ選舉區内警察官署ノ一ニ届出ツ
ヘシ

(シ)

第九十五條ノ規定ニ依リ選舉事務長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ハ前項ノ例ニ依リ届出ツヘシ其ノ之ヲ罷メタルトキ亦同シ

第八十九條 選舉事務長ニ非サレハ選舉事務所ヲ設置シ又ハ選舉委員若ハ選舉事務員ヲ選任スルコトヲ得ス

選舉事務長ハ文書ヲ以テ通知スルコトニ依リ選舉委員又ハ選舉事務員ヲ解任スルコトヲ得

選舉委員又ハ選舉事務員ハ文書ヲ以テ選舉事務長ニ通知スルコトニ依リ解任スルコトヲ得

選舉事務長選舉事務所ヲ設置シ又ハ選舉委員若ハ選舉事務員ヲ選任シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ前條第五項ノ届出アリタル警察官署ニ届出ツヘシ選舉事務所又ハ選舉委員若ハ選舉事務員ニ異動アリタルトキ亦同シ

第九十條 選舉事務所ハ議員候補者一人ニ付七箇所ヲ超ユルコトヲ得ス

選舉ノ一部無効ト爲リ更ニ選舉ヲ行フ場合又ハ第三十七條ノ規定ニ依リ投票ヲ行フ場合ニ於テハ選舉事務所ハ前項ニ掲タル數ヲ超エサル範圍内ニ於テ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ノ定メタル數ヲ超ユルコトヲ得ス

地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)前項ノ規定ニ依リ選舉事務所ノ數ヲ定メタル場合ニ於テハ選舉ノ期日ノ告示アリタル後直ニ之ヲ告示スヘシ

第九十一條 選舉事務所ハ選舉ノ當日ニ限り投票所ヲ設ケタル場所ノ入口ヨリ三町以内ノ區域ニ之ヲ置ケトトヲ得ス

第九十二條 休憩所其ノ他之ニ類似スル設備ハ選舉運動ノ爲ニ設ケルコトヲ得ス

第九十三條 選舉委員及選舉事務員ハ議員候補者一人ニ付通シテ五十人ヲ超ユルコトヲ得ス

第九十條第二項及第三項ノ規定ハ選舉委員及選舉事務員ニ關シ之ヲ準用ス

第九十四條 選舉事務長選舉權ヲ有セサル者ナルトキ又ハ第九十九條第二項ノ規定ニ依リ選舉運動ヲ爲スコトヲ得サル者ナルトキハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ直ニ其ノ解任又ハ退任ヲ命スヘシ

第八十九條第一項ノ規定ニ違反シテ選舉事務所ノ設置アリト認ムルトキハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ直ニ其ノ選舉事務所ノ閉鎖ヲ命スヘシ第九十條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル定數ヲ超エテ選舉事務所ノ設置アリト認ムルトキハ其ノ超過シタル數ノ選舉事務所ニ付亦同シ

前條ノ規定ニ依ル定數ヲ超エテ選舉委員又ハ選舉事務員ノ選任アリト認ムルトキハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ直ニ其ノ超過シタル數ノ選舉委員又ハ選舉事務員ノ解任ヲ命スヘシ選舉委員又ハ選舉事務員選舉權ヲ有セサル者ナルトキ又ハ第九十九條第二項ノ規定ニ依リ選舉運動ヲ爲スコトヲ得サル者ナルトキ其ノ選舉委員又ハ選舉事務員ニ付亦同シ

第九十五條 選舉事務長故障アルトキハ選任者代リテ其ノ職務ヲ行フ

推應届出者タル選任者モ亦故障アルトキハ議員候補者ノ承諾

ヲ得スシテ其ノ推薦ノ届出ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外議員候補者代リテ其ノ職務ヲ行フ

第九十六條 議員候補者、選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ハ此ノ限ニ在ラス

第九十七條 選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ハ選舉運動ノ爲ニ要スル飲食物、船車馬等ノ供給又ハ旅費、宿泊料其ノ他ノ實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得演說又ハ推薦狀ニ依リ選舉運動ヲ爲ス者其ノ運動ヲ爲スニ付亦同シ

第九十八條 何人ト雖投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサルノ目的ヲ以テ戸別訪問ヲ爲スコトヲ得ス

何人ト雖前項ノ目的ヲ以テ連續シテ個々ノ選舉人ニ對シ面接シ又ハ電話ニ依リ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス

第九十九條 選舉權ヲ有セサル者ハ選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ト爲ルコトヲ得ス

選舉事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區内ニ於ケル選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス

第一百條 內務大臣ハ選舉運動ノ爲頒布シ又ハ揭示スル文書圖畫ニ關シ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第十一章 選舉運動ノ費用

經濟法令

議員候補者、選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サル者ハ選舉運動ノ費用ヲ支出スルコトヲ得ス但シ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ノ費用ハ此ノ限ニ在ラス

第一百零一條 選舉運動ノ費用ハ此ノ限ニ在ラス

第一百零二條 選舉運動ノ費用ハ議員候補者一人ニ付左ノ各號ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

一 選舉區内ノ議員ノ定數ヲ以テ選舉人名簿確定ノ日ニ於テ之ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ヲ四十錢ニ乘シテ得タル額

二 選舉ノ一部無效ト爲リ更ニ選舉ヲ行フ場合ニ於テハ選舉區内ノ議員ノ定數ヲ以テ選舉人名簿確定ノ日ニ於テ關係區域ノ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ヲ四十錢ニ乘シテ得タル額

三 第三十七條ノ規定ニ依リ投票ヲ行フ場合ニ於テハ前號ノ規定ニ準シテ算出シタル額但シ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)必要アリト認ムルトキハ之ヲ減額スルコトヲ得

地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ選舉ノ期日ノ公布又ハ告示アリタル後直ニ前項ノ規定ニ依ル額ヲ告示スヘシ

第一百零三條 選舉運動ノ爲財産上ノ義務ヲ負擔シ又ハ建物、船車馬、印刷物、飲食物其ノ他ノ金錢以外ノ財産上ノ利益ヲ使用シ若ハ費消シタル場合ニ於テハ其ノ義務又ハ利益ヲ時價ニ見積リタル金額ヲ以テ選舉運動ノ費用ト看做ス

第一百零四條 左ノ各號ニ掲ケル費用ハ之ヲ選舉運動ノ費用ニ非サ

ルモノト看做ス

一 議員候補者カ乗用スル船車馬等ノ爲ニ要シタル費用

二 選舉ノ期日後ニ於テ選舉運動ノ殘務整理ノ爲ニ要シタル費用

三 選舉委員又ハ選舉事務員ノ支出シタル費用ニシテ議員候補者又ハ選舉事務長ト意思ヲ通シテ支出シタル費用以外ノモノ但シ第百一條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

四 第六十七條第一項乃至第三項ノ届出アリタル後議員候補者、選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サル者ノ支出シタル費用ニシテ議員候補者又ハ選舉事務長ト意思ヲ通シテ支出シタル費用以外ノモノ但シ第百一條第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

五 立候補準備ノ爲ニ要シタル費用ニシテ議員候補者若ハ選舉事務長ト爲リタル者ノ支出シタル費用又ハ其ノ者ト意思ヲ通シテ支出シタル費用以外ノモノ

第百五條 選舉事務長ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帳簿ヲ備ヘ之ニ選舉運動ノ費用ヲ記載スヘシ

第百六條 選舉事務長ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ選舉運動ノ費用ヲ精算シ選舉ノ期日ヨリ十四日以内ニ第八十八條第五項ノ届出アリタル警察官署ヲ經テ之ヲ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ニ届出ツヘシ

地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ前項ノ規定ニ依リ届出アリタル選舉運動ノ費用ヲ告示スヘシ

第百七條 選舉事務長ハ前條第一項ノ届出ヲ爲シタル日ヨリ一年間選舉運動ノ費用ニ關スル帳簿及書類ヲ保存スヘシ

前項ノ帳簿及書類ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百八條 警察官吏ハ選舉ノ期日後何時ニテモ選舉事務長ニ對シ選舉運動ノ費用ニ關スル帳簿又ハ書類ノ提出ヲ命ジ、之ヲ檢査シ又ハ之ニ關スル説明ヲ求ムルコトヲ得

第百九條 選舉事務長辭任シ又ハ解任セラレタル場合ニ於テハ遑滞ナク選舉運動ノ費用ノ計算ヲ爲シ新ニ選舉事務長ト爲リタル者ニ對シ、新ニ選舉事務長ト爲リタル者ナキトキハ第九十五條ノ規定ニ依リ選舉事務長ノ職務ヲ行フ者ニ對シ選舉事務所、選舉委員、選舉事務員其ノ他ニ關スル事務ト共ニ其ノ引繼ヲ爲スヘシ第九十五條ノ規定ニ依リ選舉事務長ノ職務ヲ行フ者事務ノ引繼ヲ受ケタル後新ニ選舉事務長定リタルトキ亦同シ

第百十條 議員候補者ノ爲支出セラレタル選舉運動ノ費用カ第百二條第二項ノ規定ニ依リ告示セラレタル額ヲ超ニタルトキハ其ノ議員候補者ノ當選ヲ無効トス但シ議員候補者及推薦届出者カ選舉事務長又ハ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ノ選任及監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シ且選舉事務長又ハ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ於テ選舉運動ノ費用ノ支出ニ付過失ナカリシトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三章 補則

第百四十條 議員候補者又ハ推薦届出者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ選舉區内ニ在ル選舉人ニ對シ選舉運動ノ爲ニスル通常

郵便物ヲ選舉人一人ニ付一通ヲ限り無料ヲ以テ差出スコトヲ得

公立學校其ノ地勅令ヲ以テ定ムル營造物ノ設備ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ演說ニ依ル選舉運動ノ爲其ノ使用ヲ許可スヘシ

附則

本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

本法ニ依リ初テ議員ヲ選舉スル場合ニ於テ第十八條ノ規定ニ依リ難キトキハ勅令ヲ以テ別ニ總選舉ノ期日ヲ定ムルコトヲ得前項ノ規定ニ依ル總選舉ニ必要ナル選舉人名簿ニ關シ第十二條、第十三條、第十五條又ハ第十七條ノ規定スル期日又ハ期間ニ依リ難キトキハ勅令ヲ以テ別ニ其ノ期日又ハ期間ヲ定ム但シ其ノ選舉人名簿ハ次ノ選舉人名簿確定迄其ノ效力ヲ有ス

貴族院令中改正ノ件

勅令第百七十四號 (大正十四年五月五日)

貴族院令中左ノ通改正ス

第一條第五號ヲ左ノ如ク改ム

五 帝國學士院ノ互選ニ由リ勅任セラレタル者

六 北海道各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人又ハ二人ヲ互選シテ勅任セラレタル者

第三條中「滿二十五歲」ヲ「滿三十歲」ニ改メ同條ニ左ノ二項ヲ加フ

經濟法令

前項ノ議員ハ勅許ヲ得テ議員タルコトヲ辭スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ議員タルコトヲ辭シタル者ハ勅令ニ依リ再ヒ議員トナルコトヲ得

第四條中「滿二十五歲」ヲ「滿三十歲」ニ改メ同條第二項及第三項ヲ左ノ如ク改ム

前項議員ノ定數ハ伯爵十八人、子爵六十六人、男爵六十六人トス

第五條ニ左ノ二項ヲ加フ

第一項ノ議員身體又ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキハ貴族院ニ於テ其ノ旨ヲ議決シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ

前項ノ議決ニ關スル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

第五條ノ二 滿三十歲以上ノ男子ニシテ帝國學士院會員タル者ノ中ヨリ四人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ其ノ會員タルノ間七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 滿三十歲以上ノ男子ニシテ北海道各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者百人ノ中ヨリ一人又ハ二百人ノ中ヨリ二人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關スル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ總數ハ六十六人以内トシ其ノ北海道各府縣ニ於ケル定數ハ通常選舉毎ニ人口ニ應シ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

經濟法令

第七條 削除

第十條第一項ヲ左ノ如ク改ム

議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ確定シタル者アルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ除名スヘシ

附則

本令中第四條ノ改正規定竝第一條第六號及第六條ノ改正規定ハ各大正十四年ニ於テ行フ通常選舉ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ改正規定ハ其ノ最初ニ行フ通常選舉ノ期日ヨリ之ヲ施行ス
第三條ノ改正規定施行ノ際現ニ第一條第二號ノ規定ニ依リ議員タル者ハ第三條第一項ノ改正規定ニ拘ラス議員タルヘシ
従前ノ第一條第五號ノ規定ニ依リ勅任セラレタル議員ニシテ大正十四年ニ於テ任期終了スヘキ者ノ任期ハ仍従前ノ規定ニ依ル其ノ任期ノ終了カ同年ニ於テ行フ同條第六號ノ改正規定ニ依ル議員ノ通常選舉ノ期日ヨリ前ナル場合ニ於テハ其ノ期日ノ前日迄任期ヲ延長ス

〔參照〕

明治二十二年(二月十一日公布)勅令第十一號貴族院令抄錄

第一條 貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

二 公侯爵

五 北海道各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國

稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ五選シテ勅任セラレタル者

第三條 公侯爵ヲ有スル者滿二十五歳ニ達シタルトキハ議員タルヘシ

ルヘシ

第四條 伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿二十五歳ニ達シ各々其ノ

第二十卷 (第六號 一六二) 一一〇四

同爵ノ選ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其選舉ニ關スル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ數ハ伯爵二十人以内、子爵及男爵各七十三人以内トシ通常選舉毎ニ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス但シ各爵其ノ總數ノ五分ノ一ヲ超過スヘカラス

前項ノ總數ハ議員數指定ノ際ニ於ケル數ニ依ル

第五條第一項

國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿三十歳以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員タルヘシ

第六條 北海道各府縣ニ於テ滿三十歳以上ノ男子ニシテ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者十五人ノ中ヨリ一人ヲ五選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關スル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者及北海道各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ヨリ勅任セラレタル議員ハ有爵議員ノ數ニ超過スルコトヲ得ス

第十條第一項

議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ勅命ヲ以テ之ヲ除名スヘシ

治安維持法

法律第四十六號 (大正十四年四月二十一日)

第一條 國體ヲ變革シ又ハ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シ又ハ情ヲ知りテ之ニ加入シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二條 前條第一項ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三條 第一條第一項ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ヲ煽動シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第四條 第一條第一項ノ目的ヲ以テ騷擾、暴行其ノ他生命、身體又ハ財産ニ害ヲ加フヘキ犯罪ヲ煽動シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第五條 第一條第一項及前三條ノ罪ヲ犯サシムルコトヲ目的トシテ金品其ノ他ノ財産上ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス情ヲ知りテ供與ヲ受ケ又ハ其ノ要求若ハ約束ヲ爲シタル者亦同シ

第六條 前五條ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス

第七條 本法ハ何人ヲ問ハス本法施行區域外ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス

附則

大正十二年勅令第四百三號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

大正十二年(九月十日告示)勅令第四百三號ハ治安維持ノ爲ニ

スル罰則ニ關スル件ナリ

經濟法令

勅令第七十五號 (大正十四年五月十日)
治安維持法ハ之ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ス

附則

本令ハ大正十四年五月十二日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第七十六號 (大正十四年五月七日)

關東州及南洋羣島ニ於テハ治安維持ニ關シ治安維持法ニ依ル

附則

本令ハ大正十四年五月十二日ヨリ之ヲ施行ス

關東州ニ行ハルル命令ニ依ル

日本船舶ニ關スル件

勅令第三百三十七號 (大正十四年四月二十日)

左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ除クノ外關東長官ノ許可ヲ受ケスシテ内地ト關東州外ノ地トノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲ス船舶ハ關東州ニ行ハルル命令ニ依ル日本船舶タルコトヲ得

一 内地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於テ建造シタル船舶

二 外國ニ於テ建造シ一旦内地、朝鮮又ハ臺灣ニ輸入シタル船舶

三 關東州ニ主タル營業所ヲ有シ主トシテ關東州ニ出入スル

物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲ス海上運送業者ノ所有スル船舶

關東長官第一項ノ許可ヲ與ヘムトスルトキハ逋信大臣ニ協議ス

第二十卷 (第六號一六三) 一一〇五

ヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
關東州ニ行ハルル命令ニ依ル日本船舶ニシテ本令施行ノ際現ニ
其ノ登録アルモノニハ本令ヲ適用セス

船舶無線電信施設法

法律第十一號 (大正十四年三月二十七日)

第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル日本船舶ハ無線電信ノ施設ナ
クシテ遠洋航路又ハ近海航路ニ於テ之ヲ施行セシムルコトヲ
得ス但シ航海ノ目的其ノ他ノ事情ニ依リ已ムコトヲ得スト認
メラレタルトキハ主務大臣ハ期間ヲ指定シ其ノ施設ナクシテ
之ヲ航行ノ用ニ供セシムルコトヲ得

一 總噸數二千噸以上ノ船舶

二 五十人以上ノ人員ヲ搭載スル船舶

前項第二號ノ人員ハ旅客ニ付テハ旅客定員ニ依リ之ヲ算定ス
傷病船員ノ補充、海難救助其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因
リ臨時ニ搭載シタル人員ハ之ヲ第一項第二號ノ人員中ニ算入
セス

第一項第二號ノ船舶ニシテ總噸數二千噸未滿ノモノニ付テハ
主務大臣ハ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二條 當該官吏ハ無線電信施設ノ検査ヲ行フ爲必要アルトキ
ハ何時ニテモ船舶ニ臨檢シ又ハ其ノ航行ノ停止ヲ命スルコト

ヲ得

第三條 船舶所有者又ハ船長カ本法、本法ニ其キテ發スル命令
又ハ前條ノ航行停止ノ命令ニ違反シテ船舶ヲ航行セシメタル
トキハ千圓以上ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ニ該當スル船舶所有者カ未成年者若ハ禁治産者ナ
ル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ其ノ者ニ適用スヘキ間則ハ其
ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リテ法人ヲ代表スル者ニ之
ヲ適用ス

第四條 正當ノ事由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ妨ケ若ハ忌
避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シ
タル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 本法ニ於テ船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合
ニ在リテハ之ヲ船舶管理人ニ、船舶貸賃借ノ場合ニ在リテハ
之ヲ船舶賃借人ニ適用シ船長ニ關スル規定ハ之ヲ船長ニ代リ
テ其ノ職務ヲ行フ者ニ適用ス

第六條 本法ハ日本船舶ニ非サル船舶ニシテ本法施行地内ノ港
ニ出入スルモノニ之ヲ準用ス

附則

本令施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

漁業財團抵當法

法律第九號 (大正十四年三月二十七日)

第一條 漁業權若ハ其ノ登録シタル賃借權ヲ有スル者、漁業ノ

用ニ供スル登記シタル船舶ヲ有スル者又ハ水産物ノ養殖場ヲ有スル者ハ之ニ付抵當權ノ目的ト爲ス爲漁業財團ヲ設クルコトヲ得

第二條 漁業財團ハ左ニ掲クルモノニシテ同一人ニ屬スルモノ全部又ハ一部ヲ以テ之ヲ組成スルコトヲ得

一 漁業權又ハ其ノ登録シタル賃借權

二 船舶並其ノ屬具及附屬設備

三 土地及工作物

四 地上權及土地若ハ水面ノ使用又ハ引水若ハ排水ニ關スル權利

五 漁具及副漁具

六 機械器具其ノ他ノ附屬物

七 物ノ賃借權

八 工業所有權

前項ノ權利ニシテ其ノ移轉ニ付行政廳ノ許可又ハ認可ヲ要スルモノニ付テハ其ノ許可又ハ認可ヲ、賃借權ニ付テハ賃貸人ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ之ヲ漁業財團ニ屬セシムルコトヲ得ス

第三條 漁業權又ハ其ノ登録シタル賃借權カ漁業財團ニ屬スル場合ニ於テハ抵當權ハ其ノ漁場ニ定著シタル工作物ニ及フ船舶カ漁業財團ニ屬スル場合ニ於テハ抵當權ハ其ノ船舶ノ屬具ニ及フ

前二項ノ規定ハ設定行爲ニ別段ノ定アルトキ又ハ民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ債權者カ債務者ノ行爲ヲ取消スコトヲ

得ル場合ニハ之ヲ適用セス

第四條 漁業權ニ付漁業財團ヲ設定シタル場合ニ於テ其ノ漁業免許ノ取消アリタルトキハ其ノ處分ヲ爲シタル行政官廳ハ直ニ之ヲ抵當權者ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ抵當權者ハ其ノ權利ヲ實行スルコトヲ得前項ノ規定ニ依リ抵當權ヲ實行セムトスルトキハ抵當權者ハ第一項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六月内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ漁業權ハ前項ノ期間内又ハ抵當權實行ノ終了ニ至ル迄抵當權實行ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍存續スルモノト看做ス

墜落ヲ許ス決定カ確定シタルトキハ漁業免許ノ取消ハ其ノ效力ヲ生セザリシモノト看做ス

前四項ノ規定ハ水産物ノ蕃殖保護、船舶ノ航行碇泊留置、海底電線ノ敷設若ハ國防其ノ他ノ軍事上必要アル場合公益上害アル場合又ハ錯誤ニ依リ漁業ノ免許カ與ヘラレタル場合ニ於ケル漁業免許ノ取消ニ關シテハ之ヲ適用セス

第五條 前條第一項ノ規定ハ漁業權ノ登録シタル賃借權ニ付漁業財團ヲ設定シタル場合ニ於テ其ノ漁業免許ノ取消アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第六條 漁業財團ニ付テハ本法ニ規定スルモノ及罰則ヲ除クノ外工場抵當法中工場財團ニ關スル規定ヲ準用ス但シ工場抵當法第十七條及第四十五條ノ規定ヲ準用ニ付テハ漁業權又ハ其ノ登録シタル賃借權ハ其ノ漁場ニ最近キ沿岸ノ屬スル市町村又ハ之ニ相當スル行政區劃、漁業ノ用ニ供スル登記シタル船舶ハ其ノ船舶港ヲ以テ其ノ所在地ト看做ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔參照〕

明治二十九年(四月二十七日公布)法律第八十九號民法第一

編第二編第三編抄錄

第四百二十四條

債權者ハ債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ

知りテ爲シタル法律行爲ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ

得但其行爲ニ因リテ利益ヲ受ケタル者又ハ轉得者カ其行爲

又ハ轉得ノ當時債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラザリシトキハ

此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ財産權ヲ目的トセサル法律行爲ニハ之ヲ適用

セズ

明治三十八年(三月十三日公布)法律第五十四號工場抵當法

抄錄

第十七條

工場財團ノ登記ニ付テハ工場所在地ノ區裁判所又

ハ其ノ出張所ヲ以テ管轄登記所トス

不動産登記法第八條第二項ノ規定ハ工場カ數箇ノ登記所ノ

管轄地ニ跨カリ又ハ工場財團ヲ組成スル數箇ノ工場カ數箇

ノ登記所ノ管轄地内ニ在ル場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條

工場財團ノ差押、假差押又ハ假處分ハ工場所在

地ノ區裁判所ノ管轄トス

民事訴訟法第二十六條ノ規定ハ工場カ數箇ノ區裁判所ノ管

轄地ニ跨カリ又ハ工場財團ヲ組成スル數箇ノ工場カ數箇ノ

區裁判所ノ管轄地内ニ在ル場合ニ之ヲ準用ス

倫敦協定(大正十四年三月五日外務

省告示第二專八號)ニ依リ實施セラ

ルルコトニ決定シタル專門家計畫

(所謂「ドーズ」案)ノ第一編ノ概要

第一 委員會ノ態度

イ 其ノ探リタル立脚點ハ實務的ニシテ政治的ニ非ス

ロ 政治的要素ハ計畫ノ實行性ニ影響ヲ及ス範圍内ニ於テノ

ミ考慮セラレタリ

ハ 債務ノ回收ヲ目的トシ科刑ヲ目的トセス

ニ 獨逸國ニ依ル右債務ノ支拂ハ戰爭ノ損害ノ復舊ニ對スル

其ノ當然ノ負擔ナリ

ホ 一切ノ事業ノ基本タル誠意ヲ以テ本計畫ヲ實行スルコト

ハ常事國全部ノ利益ナリ吾人ノ計畫ハ右原則ニ基クモノナ

リ

ハ 獨逸國ノ復興ハ單獨ニ之ヲ目的トセス歐羅巴復興ノ一層

大ナル問題ノ一部ヲ爲スニ過キス

ト 提案セラレタル保障ハ經濟的ニシテ政治的ニ非ス

第二 獨逸國ノ經濟的統一

通貨ノ安定及豫算ノ均衡ニ成功セムカ爲ニハ獨逸國ハ「ザエ

ルサイエ」條約ニ依リ確定セラレタル獨逸國領域ノ資源及之

ニ於ケル自由ナル經濟的活動ヲ必要トス

第三 軍事の方面―保障及課セラルルコトアルヘキ制裁

イ 政治的保障及制裁ハ吾人ノ權限外ナリ

ロ 本問題ノ軍事方面ハ吾人ノ委任セラレタル權限ノ外ナ
リ

ハ 統一セラレタル領域内ニ於テ本計畫ヲ有效ニ實施スルニ
ハ在ノ事項ヲ必要トス

一 軍事組織ノ存在スルトキハ該組織ハ經濟的活動ノ自由
ヲ妨ケサルコトヲ要ス

二 本計畫ニ依リ提案セラレタルモノノ外ハ何等ノ外國ノ
經濟的監視又ハ干渉ナカルヘシ

ニ 然レトモ適當ニシテ生産的ナル保障ハ之ヲ設ケタリ

第四 委員會ノ任務

イ 通貨ノ安定及豫算ノ均衡ハ審査ノ爲假ニ分離セラレ得ヘ
キモ密接ニ關聯スル問題ナリ

ロ 通貨ノ安定ハ豫算カ正當ニ均衡ヲ保ツトキニ於テノミ維
持セラレ得ヘク豫算ハ安定ニシテ信用アル通貨ノ存在スル
トキニ於テノミ均衡ヲ保ツコトヲ得

ハ 此等兩者ハ獨逸國ヲシテ國內ノ需要及條約上ノ支拂ニ應
ジシメムカ爲ニ必要ナリ

第五 獨逸國將來ノ經濟

イ 生産力ハ増加スル人口、専門的熟練、豊富ナル物質的資
源及國內ニ於ケル工業科學ノ優越ヨリ期待セラルヘシ

ロ 設備ノ能力ハ戰爭以來増加シ且改善セラレタリ

第六 通貨及發行銀行

イ 一切ノ階級ハ安定セル通貨ニ依リ利益ヲ享クヘシ殊ニ勞
働階級ニ於テ然リトス

經濟法令

ロ 現状ニ於テハ「レンテンマルク」ノ安定ハ單一時的ナリ
ハ 新銀行ヲ設立シ又ハ「ライヒスバンク」ヲ改造スルコトト
ス

ニ 右銀行ノ主要ナル特徴ハ左ノ如シ

一 排他的特權ヲ以テ金ニ據ル安定セル基礎ノ上ニ銀行券
ヲ發行スルコト

二 銀行ノ銀行ニシテ割引ノ公定率ヲ定ムルモノナルコト

三 政府ノ銀行ナルモ政府ノ監視ヲ免ルルモノナルコト

四 政府ニ對スル貸出ハ嚴格ニ制限セラルヘキコト

五 賠償支拂金ノ預入ヲ受クルコト

六 右銀行ノ資本ハ四億金貨「マルク」タルコト

七 同銀行ハ獨逸國人タル總裁及理事會ニ依リテ統轄セラ
ルヘク此等ハ獨逸國人ヨリ成ル評議員會ノ輔佐ヲ受クル
ヲ得ヘキコト

八 其ノ定款ノ適當ナル遵守ハ更ニ監事會ニ依リ保障セラ
ルヘク右監事會員ノ半數(監理人ヲモ包含ス)ハ外國人ヨ
リ成ル

第七 豫算及一時的賠償猶豫
獨逸國豫算ノ均衡ニハ左ノ事項ヲ要ス

イ 本報告ニ定ムル監督ニ從フヲ條件トスル完全ナル經濟上
及財政上ノ主權

ロ 安定ナル通貨

ハ 條約上ノ義務ニ基ク豫算上ノ負擔ノ一時的猶豫

ニ 右猶豫ハ須要ナル實物引渡ヲ停止スルモノニ非ス

第二十卷 (第六號 一六七) 一一〇九

第八 獨逸國ノ年次負擔ノ基礎的原則

イ 條約上ノ義務及豫算均衡ノ繼續

一 豫算ノ均衡ニハ單ニ國內行政費ヲ償フノミニテハ不充分アリ

二 獨逸國ハ亦其ノ條約上ノ對外義務ニ對シテモ其ノ能力ノ最大限度迄資金ヲ調達スルコトヲ要ス

三 必シモ獨逸國ノ債務總額問題ヲ處理セストモ豫算ノ均衡ヲ保チ得ヘシ

四 豫メ明確ニ決定セラレタル基礎ノ上ニ年次負擔金力長期間ニ付定メラルルニ非サレハ豫算ハ繼續的ニ均衡ヲ保ツコト能ハサルヘシ

ロ 課税ノ相應

一 政府ノ國內債務ハ通貨ノ低落ニ依リ實際上消滅セリ

二 新債務負擔ハ佛蘭西國、英吉利國、伊太利國及日耳曼國ノ納稅者ノ負擔ト相應セサルヘカラス

三 平和條約ハ右原則ヲ承認ス

四 右ハ道德的ニ公正ナリ

五 右ハ生産費ニ對スル其ノ影響ニ於テ經濟的ニ正當ナリ

六 右原則ハ實行シ得ル限り適用セラレタリ

ハ 獨逸國ノ繁榮ニ對スル同盟國ノ取分

一 獨逸國ニ對スル債權者ハ獨逸國ノ繁榮増進ニ對シ取分ヲ有ス

二 右ハ繁榮ノ指數ニ依リテ行ハルヘシ

ニ 租税支拂ノ獨逸國入ノ能力ト富ヲ外國ニ移轉スル獨逸國

第九 ノ能力トノ間ニ重大ナル差異アリ

支拂ノ行ハルル通常財源

獨逸ハ三種ノ財源即チ租税、ロ鐵道、ハ工業債券ヨリ條約上ノ負擔ヲ支拂フモノトス

イ 經常豫算ヨリ

一 千九百二十四—千九百二十五年豫算ハ平和條約ニ基ク負擔ヲ免除セラルルニ於テ平均ヲ保チ得ヘシ

二 千九百二十五—千九百二十六年豫算ハ特別財源ヨリ五億金貨「マルク」ヲ受入レ而シテ右金額ヲ賠償トシテ支拂フコトヲ得ヘシ

三 千九百二十六—千九百二十七年 一億一千萬金貨「マルク」(註)

四 千九百二十七—千九百二十八年 五億金貨「マルク」(註)

五 千九百二十八—千九百二十九年 十二億五千萬金貨「マルク」

右ハ通常年度ニシテ標準支拂ト認メラルヘシ爾後ハ繁榮ノ程度ニ應ジ増額支拂ヲ爲スヘシ

(註) 特定ノ場合ニ於テ増額又ハ減額スルコトヲ得

ロ 鐵道ヨリ

一 鐵道債券

イ 二百六十億ノ資本價格ニ對シ第一抵當權ヲ有スル百十億ノ債券ハ賠償ノ爲ニ發行セラルヘシ

ロ 右債券ハ年利五分及減債基金年一分ヲ負擔ス

ハ 改造ヲ願慮シ左ノ利子ヲ附ス

千九百二十四—千九百二十五年

三億三千萬金貨「マルク」

千九百二十五—千九百二十六年

四億六千五百萬金貨「マルク」

千九百二十六—千九百二十七年

五億五千萬金貨「マルク」

千九百二十七—千九百二十八年以後

六億六千萬金貨「マルク」

右債券ノ外ニ左記ヲ發行スヘシ

一般賣出ニ留保セララルヘキ二十億ノ優先株及

百三十億ノ普通株

優先株賣上金ノ四分ノ三ハ必要ニ應シ債務ノ支拂及鐵道

ノ資本支出ニ充テラルヘシ

殘餘ノ五億ノ優先株及一切ノ普通株ハ獨逸國政府ノ有ニ

歸ス

二 運送税

千九百二十五—千九百二十六年以後毎年二億九千萬金貨

「マルク」ハ之ヲ賠償ニ充テ且殘額ハ獨逸國政府ノ有ニ歸

ス

ハ 工業債券

一 五十億ノ工業債券ハ賠償ニ充テラルヘシ

二 因テ生スル工業上ノ負擔ハ之ヲ戰前ニ在シ且現在通

貨ノ低落ニ依リテ消滅セル負擔ヨリ少額ナリ

三 右債券ハ年利五分及減債基金一分即チ年額三億金貨

「マルク」ヲ負擔ス

四 經濟復興ノ期間利子及減債基金ハ左ノ如ク附セラルヘ

經濟法令

シ 第一年ナシ

第二年一億二千五百萬金貨「マルク」

第三年二億五千萬金貨「マルク」

爾後三億金貨「マルク」

第十條約上ノ支拂ニ對スル財源ノ要約

一 豫算ヨリスル支拂ノ猶豫期間

第一年 外債及鐵道債券利子ノ一部ヨリ

計 十億金貨「マルク」

第二年 鐵道債券及工業債券ノ利子ノ一部及鐵道株券

五億金貨「マルク」ノ賣却ニ依ル豫算上ノ支出

ヨリ

計 十二億二千萬金貨「マルク」

二 過渡期間

第三年 鐵道債券及工業債券ノ利子、運送税又豫算ヨ

リ 計 十二億金貨「マルク」

(場合ニ依リ二億五千萬金貨「マルク」ノ増額

アルヘシ)

第四年 鐵道債券及工業債券ノ利子、運送税及豫算ヨ

リ 計 十七億五千萬金貨「マルク」

(場合ニ依リ二億五千萬金貨「マルク」ノ増減

アルヘシ)

三 標準年度

第五年 鐵道債券及工業債券ノ利子、運送税及豫算ヨ

リ 計 二十五億金貨「マルク」

第二十卷 (第六號 一六九) 一一一

經濟法 令

爾後ハ繁榮ノ指數ニ基キテ計算セラレタル追加額ヲ二
十五億ニ加算ス

債券ノ利子ハ右金額ニ合マルルモ債券ノ賣上金ハ之ニ
合マレヌ

ロ 第一年ハ本計費カ承認セラレ且有效ニ實施セラルルノ日
ヨリ始マル

第十一 總計貨物引渡

イ 前記ノ金額ハ獨逸國カ同盟及聯合國ニ支拂フヘキ總テノ
金額ヲ包括ス

ロ 貨物引渡ハ繼續セラルヘキモ銀行ニ於ケル差引殘額ヨリ
支拂ハルヘシ

第十二 獨逸國カ年次支拂ヲ爲ス方法

イ 金額ハ金貨「マルク」ヲ以テ調達セフレ且銀行ニ支拂ハル
ルモノトス

ロ 此等ノ支拂ハ獨逸國ノ年次債務ニ充ツ

第十三 債權者カ支拂ヲ受領スル方法

イ 獨逸國ニ對スル債權者ハ獨逸國內ニ於テ右金額ヲ使用ス
ルカ又ハ外國貨幣ニ之ヲ換フ

ロ 換貨カ安全ニ實行セラレ得ル換算率及限度ハ經驗ニ依ル
ヘシ

ハ 過多ノ送金カ通貨安定ニ及ス危險ハ引渡委員會ニ依リテ
除カルモノトス

ニ 送金セラレサル金額ハ積立テラルルモ或ル一定ノ額ヲ限
度トス

第十四 鐵道債券及工業債券以外ノ保障

イ 左ノ收入ハ豫算上ノ支出其ノ他ノ支拂ニ對スル保障ト爲
ス

- 一 酒精
- 二 煙草

三 麥酒

四 砂糖

五 關稅

ロ 右收入ノ實收ハ必要ナル支拂額ヲ著シク超過スヘシト認
定セラレ

ハ 超過額ハ之ヲ獨逸國政府ニ返還ス

第十五 對外借款—其ノ條件及目的

八億金貨「マルク」ノ對外借款ハ二重ノ目的ニ充ツ

イ 新銀行ノ金準備ノ必要
ロ 千九百二十四—千九百二十五年ニ於ケル條約上ノ須要ナ
ル目的ニ對スル國內支拂

第十六 組織

組織ハ左記ヨリ成ル

イ 鐵道債券及工業債券ニ對スル受託人
ロ (一)鐵道(二)銀行(三)監理セラルル收入ニ對スル三名ノ監理人
ハ 上記ノモノノ活動ニ協力シ且引渡委員會ノ議長タルヘキ
賠償支拂取扱人

第十七 本計畫ノ性質

イ 本計畫ハ不可分ノ一體ナリ
ロ 本計畫ノ目的ハ左ノ如シ

一 獨逸ヨリ能フ限り多額ノ年次支拂ヲ行ハシムル組織ヲ
立シルコト

二 獨逸國ニ對スル債權者ニ對シテ最大限度ノ引渡ヲ爲ス
ヲ得シムルコト

三 「獨逸國ハ何ヲ支拂ヒ得ヘキカ」ノ問題ヲ豫測ノ範圍ヨ
リ引離シ之ヲ實證ノ範圍ニ置クコト

四 事情ノ許ス限り速ニ一切ノ賠償問題及之ニ關聯スル問
題ニ付最終的且包括的協定ヲ容易ナラシムルコト